

働き方改革 KAIZEN 5 5 ～チリツモ 5 5～
各務原市立那加第二小学校

1. 目標

スリム化を工夫・実行して、毎日15分早く帰る。

2. 加配教員に係る実施状況

加配措置状況		実施教科	実施状況					
非常勤	(週時間)		5年生			6年生		
			実施	学級	時間	実施	学級	時間
1	18	家庭科	○	2	4	○	2	4

※18時間には、3・4年生 図画工作(6)、音楽(2)、書写(2)を含む。

3. 実践の内容

主な取り組みとして次のようなことを行った。

(1) 教科担任制の推進及び全担任の空き時間確保…月当たり30時間削減

- ・教科の本質を教師が理解し、教科の見方・考え方を働かせて資質・能力を高める姿をより推進することができた。
- ・教師の教材研究の時間を削減することにつながった。
- ・小学校教科担任加配や理科専科加配により全担任に空き時間を確保した。

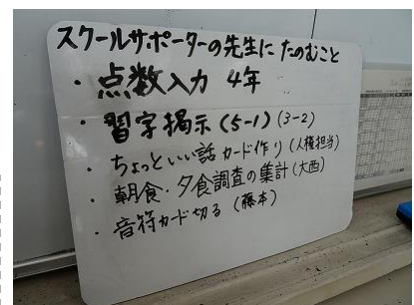
1年	図工	音楽			
2年	図工				
3年	理科	音楽	図工		
4年	理科	社会	外国語活動	図工	音楽
5年	社会	家庭科	理科		
6年	外国語	家庭科	音楽	理科	

(2) スクールサポーターによる事務仕事の軽減…月当たり5時間削減

- ・依頼したい作業をホワイトボードに記入するようになったことで、気軽に依頼することができるようになり、スクールサポーターも内容を見ながら効率的に作業することができ活性化につながった。

<依頼内容>

- | | | |
|----------|---------|---------|
| ・印刷 | ・掲示物 | ・教材づくり |
| ・アンケート集計 | ・環境整備作業 | ・保健業務作業 |



(3) リーディングデーの実施…月当たり15時間削減

- ・毎週木曜日を「リーディングデー」とし、漢字ドリルや計算ドリルの宿題を全校的に行わない代わりに、読書をすることにした。低学年は10分以上、中学年は20分以上、高学年は30分以上の読書をするのが宿題となっている。

令和2年度多忙化解消アクションプラン

(小学校における働き方改革推進プロジェクト校用)

- ・「リーディングデー」を実施したことで、金曜日は担任が宿題の見届けをする時間が削減され、子どもと向き合う時間になっている。教師が子どもの相談を聞いたり、一緒に遊んだりする時間を確保している。
- (4) 子どもの下校時刻を早めて教師の教材研究時間の確保…月当たり4時間削減
- ・通常日課の改定 16:10 下校 → 15:55 下校
 - ・水曜日日課の改定 昼休みを無くし、下校時刻を 15:20

4. 評価結果

○担任の平均空き時間数

	全担任	高学年担任		
	1～6年・さくら	5年生	6年生	平均
R1	1.6	2.5	3.0	2.8
R2	3.1	3.5	4.5	4.0

○教職員の月当たりの平均時間外勤務時間 (9月～11月)

	9月	10月	11月	9～11月平均
R1	73時間57分	89時間02分	56時間21分	74時間06分
R2	48時間32分	56時間09分	50時間44分	52時間21分

昨年度は、社会科全国大会の会場校であり、多くの準備を必要としたため、時間外勤務も増大した。今年度は、働き方改革推進プロジェクト校として、小学校教科担任加配の職員がいることにより、全担任に空き時間を確保することができた。全担任に空き時間ができたからこそ、時間外勤務の削減ができるとの意識が職員の中で生まれてきた。そして、早く帰る職員が数人出てきたことにより、他の職員も早めに帰ろうとする雰囲気が出てきたので、昨年と比べて時間外勤務時間を削減することができた。しかし、コロナ禍により行事の変更や急な対応が求められることが多くあった。9月は、運動会は中止となったが、今年度初めての授業参観に向けての準備、10月・11月は、研究授業の準備や新たな行事(スポーツフェスティバル)に向けての準備や打合せ等で45時間超となった人数が多くなってしまった。

5. 成果と課題

(1) 成果

- ・スリム化のために改善してきたことは、上記の他に小さいことを含めると55以上になる。これらの改善と教職員一人一人が15分早く帰ることを目標に仕事をする意識の改善が削減につながった。

(2) 課題

- ・さらなる時間外勤務時間の削減のためには、教職員一人一人が改善意識を持って常に変化をしていく姿勢を続けていくことが必要である。また、加配や外部人材等を活用して多忙化解消に努めたいと考えている。